

# 被害を最小限に抑える「力」

万が一災害が発生した場合、その規模が大きくなればなるほど町や消防、自衛隊などの行政機関だけでは、すべての現場に対応しきれなくなります。被害を最小限に抑えるためには、行政の対応である「公助」のほかに「自助」と「共助」の力が必要だといわれています。自助と共助とはいったいどのようなことでしょうか。

## 自助

各家庭での取り組み

### 自分の身を自分で守る力

自助とは災害時の一番の基本「自分の身は自分で守る」ことです。災害時だけでなく、普段から災害に備えて対策をとることも身を守ることにつながります。**自宅の地震対策**を大きな地震が起こった場合、倒れてきた家

具などがをしたり亡くなったりする方が少なくありません。家の中を確認し、大きな家具は留め金などで固定しましょう。また、家の耐震性を調べておくことも大切。必要な場合は柱や土台の補強をしておくなど地震対策をとりましょう。

**家族で役割分担を話し合おう**  
いざというときあわてずに行

動できるように、普段からご家族で▽避難場所の確認▽誰が幼児や高齢者を連れて避難するか▽救急医薬品の点検▽家族全員の役割分担——などについて話し合っておきましょう。また、万が一はぐれたときのために住所や名前を書いた名札を各自が持つようにしましょう。自分や家族を守ることができるのは、ほかならぬあなた自身です。皆さんも各家庭で災害対策に取り組んでみてください。

## 準備はOK？ 非常持出袋



災害に備えて、非常持出袋に必要なものを準備し、いつでも持ち出せる場所に置いておきましょう。

▷用意する物の例

- ・懐中電灯
- ・ラジオ
- ・ヘルメット、防災頭巾
- ・ろうそく、ライター
- ・2～3日分の水と食料
- ・作業用の手袋
- ・トイレトペーパー
- ・毛布、衣類
- ・ナイフ、缶切り
- ・現金（小銭も）
- ・ビニール袋

※このほかにも救急箱や預金通帳、赤ちゃんがいる家庭ではミルクやおむつなどを用意しましょう。

## 自助 自主防災組織の結成 共助 地域が共に助け合う力

「共助」とは、互いに助け合うという意味があります。阪神・淡路大震災で崩れた建物の中から救出された人々の多くは、地域住民の活躍により助け出されたという報告があり、地域住民が協力し合って助け合う「共助」の力は災害時に重要な役割を果たしています。



**自主防災組織とは**  
この共助の力を最大限に発揮するため結成されるのが自主防災組織です。同組織の活動は、地域内の情報収集や初期消火活動、負傷者の救出や避難誘導、食料や水の分配など多岐にわたっています。また、平常時にも防災知識を広める広報

活動や地域内の安全点検などを行うほか、独自の防災訓練に取り組んでいる団体もあります。

### ◆町内の自主防災活動団体

団体の名称	対象地区
北浜地区自治会	北浜地区
飯岡地区住民自治会	飯岡、長崎地区
船越地区自治連合会自主防災部	船越地区
前須賀自治会	船越前須賀地区
大沢袴田川向地区自治会	大沢川向、袴田地区
愛宕地区自主防災会	中央町の一部、後楽町
大浦地区自主防災活動推進協議会	大浦地区
織笠森地区自主防災会	織笠森地区
山田中地区自主防災会	中央町の一部、八幡町
山田南自治会	境田、川向地区

### 町内の活動状況

町内で自主防災活動に取り組む団体は現在10団体。また、田の浜や大浦など5地区には婦人消防協力隊や婦人防火クラブがあります。町ではこれらの団体に防災資機材を交付し、地域の自主防災活動を推進しています。防災活動には地域全体で取り組んだ方が効果的です。自主防災組織が無い地区の皆さん、ぜひ設置を検討してみてください。設置についての相談は役場総務課防災対策主幹（☎82-3111内線460）までどうぞ。